

教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識および能力 (健康福祉学研究科)

平成 30 年(2018 年)5 月 1 日現在

健康福祉学専攻(博士前期課程)の教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)

○共通科目

人間の生命と生活(QOL)及び人間を取り巻く環境について、総合的に理解する科目であり、本学の教育理念である「人間性の尊重」、「生活者の視点の重視」、「地域社会との共生」、「国際化への対応」に基づく大学院の共通科目である。

○基盤科目

健康福祉学とは何かを追究し、そのための方法論を修得する科目である。講義と演習は一体的・一貫的に授業が展開されるので、健康福祉の諸知識・理論をもとに、健康福祉に関する諸課題の解決のための具体的なアプローチの方法を実践的に修得する。

○基礎科目

身体・心理・社会を総合的に理解する基礎分野の知見及び社会福祉・看護・栄養領域からのアプローチの基礎的な知見を修得し、健康福祉の諸課題の解決方法を論理的に導く思考力を修得する科目である。

○応用科目

共通科目、基盤科目、基礎科目をもとに、地域社会における健康福祉の諸課題を解決するための実践・臨床の理論と方法及び特定の問題を解決するための理論と方法を修得する科目である。大きく三つの科目群から構成される。

1 地域課題を理解する科目群

地域社会における健康福祉の諸問題を理解し、その解決の方法について、社会福祉学、看護学、栄養学からのアプローチにより修得する科目である。

2 実践・臨床の理論に関する科目群

地域社会における健康福祉の諸課題を具体的にかつ応用的に解決するための方法としての実践・臨床の理論を修得する科目です。さらに、社会福祉学、看護学、栄養学、心理学からのアプローチを基本に、それらを統合し、問題解決のための実践力と指導力を修得する科目である。

3 課題解決の理論に関する科目群

多岐にわたる健康福祉の特定の課題を具体的に解決していく理論と実践的展開方法を修得する科目である。

○特別研究

共通科目、基盤科目、基礎科目、応用科目を統合的に修得し、特定の課題を設定して、修士論文を作成していく科目である。

健康福祉学専攻(博士後期課程)の教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)

○基層講究

健康福祉学の基礎的な理論と方法を修得させるとともに、ライフサイクル全般における対人援助に関する深い知識の修得を目指す科目群である。

○専門講究

豊かな生活を支えるために必要な、健康福祉学を構成する「社会福祉領域」「看護領域」「栄養領域」のいずれかにおいて、高い水準の専門知識と研究・分析能力を確立させるとともに、総合的・学際的（複眼的）な視点を育成するために構成されている。

1 健康福祉理論系

健康福祉に関する諸課題を、多面的・総合的な視点から、論理的・理論的に検討する科目である。

2 健康福祉実践ケア系

健康福祉に関する諸課題を、実践的に検討する科目である。

○特別研究

基層講究、専門講究を修得し、新規かつ独創的な問題視座から、外部評価に耐える博士論文を作成するとともに、自立した研究能力を育成していく科目である。